

ひどい咳・長引く咳にご用心！ 百日咳かも？



臼杵市では、6月になり咳の長びく患者さんが多くなり、その中の数名から百日咳菌が検出されました。また全国的にも、大分県の他の市町村でも百日咳発生の報告が増えています。一度は聞いたことのある「百日咳」という名前ですが、どのような病気なのかを今回は詳しく説明いたします。

Q1. 百日咳とはどんな病気ですか？

百日咳菌による気道感染で、最初のかぜ症状で始まり、次第に咳の回数が増え、①急に咳き込み始めるひどい咳が特徴で、②咳き込んだ後息を吸い込むときに笛（ふえ）なるような音がしたり、③咳込んだあと嘔吐することも特徴的です。熱は出ないか、出ても微熱程度です。新生児・3カ月未満の乳児では無呼吸発作やけいれんを起こすことがありますので注意が必要です。潜伏期間は7～10日です。

Q2. どのように感染しますか？

百日咳の細菌は、咳やくしゃみなどによる飛沫感染によってうつります。手で触ったものから接触感染することもあります。接触感染を防ぐためには、手洗いをきちんとすることも大切です。咳が出る時は人ごみには行かないようにして、マスクをして他の人に移さないようにしましょう。

Q3. ワクチンを接種していてもかかりますか？

ワクチン接種をしていると、百日咳にかからないか、かかっても症状が軽くなることが多いです。

百日咳を含むワクチンは、3種混合と4種混合があります。しかし、ワクチン接種から年数がたつと効果が薄れてしまいます(通常5～10年くらい経過すると効果は薄くなります)。実際に(図1)の全国の発生状況をもとにワクチンの効果が高い年齢の1歳～4歳の子どもの罹患数は多くありません。咳込みが長く続くときや嘔吐するほどの咳が出る時は百日咳を疑って、検査をお勧めします。

Q4. どのように検査しますか？

検査方法は2種類あります。

- ①ランブ法・・・咳の出始めより3週間以内
鼻腔から綿棒を入れて採取します。
- ②血液検査・・・咳の出始めより3週間後から
採血によりIgM、IgA。
それ以降は、IgGを検査します。

*いずれも保険適用となっております。

結果は3～5日かかります。

Q5. 治療は？

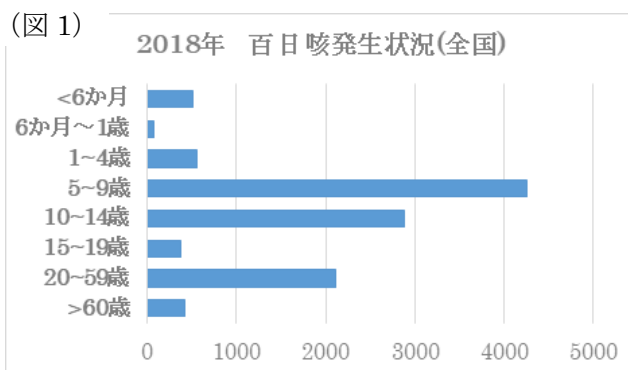
治療としては、マクロライド系抗生物質（クラリスロマイシン等）の内服を行い、一般的な咳や痰の薬で対処します。服用開始から5日後には菌は陰性となるので人には移らなくなります。しかし、百日咳は菌の成分そのものが咳を誘発する成分があるため、菌が死んでも咳が長く出続けるのが特徴です。

Q6. 登園、登校は？

学校保健安全法では「特徴的な咳がおさまるか、5日間の適正な抗生剤治療が終了するまで」とされています。抗生剤治療が終了すれば咳が続いていても人には移らず登校、登園できます。

Q6. 2018年の百日咳発生状況

2018年4月から、全ての医療機関へ百日咳の全数届出が義務付けられました。それにより、感染の広がりが詳しくわかるようになりました。2018年1年間に全国で11190人の感染の報告があり、5歳～14歳の年代が最も多く全体の2/3を占めていました。また20歳以上の成人も全体の2割強を占めており、大人も百日咳に感染していることがわかります。(図1)



咳が続いている方は、早めに医療機関の受診をお勧めします！！